

SAUNA AID

2022年3月22日

即時リリース

サウナエイドプロジェクトー日本から支援を受ける

国際サウナ協会(ISA)が主催するサウナエイドは、日本サウナ・スパ協会より1万ユーロの寄付を受けたことを発表しました。<https://www.sauna.or.jp>

この寄付金は、特注のモバイルサウナの製造と、ISAの「サウナと健康」プロジェクトの支援にあてられます。

ISA会長のリスト・エロマ氏によると、「モバイルサウナは、フィンランド軍用の大型テントサウナを製造しているメーカーによって、現在フィンランドのミッケリに建設中です。テントサウナ専門の家族経営企業である Arctinar 社と共同で設計し、3月26日までに完成させる予定です。<https://arctinar.com>。サウナには20人の入浴が可能で、ベンチやフィンランド製の薪ストーブのほか、独立した薪ストーブも完備しています。サウナの設計図と使用説明書は、ご要望に応じて提供します。

このテントサウナは、3月26日(土)にヘルシンキの旧ラピンラハティ精神病院内にある精神福祉・文化イベントセンター「ラピンラーデンレーデ」で開催される慈善イベントで一般公開されます。<https://lapinlahdenlahde.fi/en/> このイベントでは、ボルシチスープなどのウクライナ料理も提供され、収益は国際赤十字に送られ、ウクライナ難民を支援するために活用されます。

サウナ・エイドは現在、フィンランド、ポーランド、リトアニアの一部の地域でサウナ施設の提供・支援を行っています。今後、ウクライナ人避難民を受け入れている他の国でも順次実施する予定です。ポーランド、チェコ共和国、ドイツ、リトアニア、ノルウェー、デンマーク、英国、フィンランドのISA関連会社がサウナの移動を調整し、またサウナの運営と維持のためのボランティア入浴係を募集・組織しています。

ウクライナ人の間で知られているサウナ(laznia/banya)は、日常生活の重要な一部であり、衛生、ストレス解消、社会化、心理的快適さ、社会的アイデンティティを得るための手段となっています。贅沢品でもなければ、清潔であることだけが目的でもありません。老いも若きも、富める者も貧しい者も共に集い、平和と人間性の共通感覚を促進する社会的な行事なのです。ウクライナ人は、ラズニアを「第二の母」と呼んでいます。